

「水」の事故から



子どもを守る！

JSS登別では、着衣水泳体験を
全クラスで下記期間に実施します！

6月9日(火)～13日(土)

- 時間 ・レッスン前半の約15分間実施いたします。
その後は通常レッスンになります。
- 対象クラス ・ベビー・キンダー・ジュニア・JSS部・大人のクラス
※ヨガ教室は含みません
※選手コース 6月9日(火)のみ実施
- 持ち物 ・JSS指定Tシャツ(お持ちでない方は無地の白いTシャツ)
※貸出はありません
・濡れたTシャツを入れるビニール袋
※水質管理の維持のため、柔軟剤を使用していない
Tシャツをご準備願います。

ご不明な点等ございましたらお気軽にお問合せ下さい！ JSS登別スイミングスクール ☎0143-86-6800

残念なことですが各地で水の事故が相次いでいます。。
子どもを助けようとした大人が命を落としたニュースもありました。
警察庁生活安全企画課の発表では中学生以下の子どもの水難者は令和7年103件！
行為別の水死者数は「水遊び」が約25% 水深10cmでも事故は起きます。

「1番は未然に防ぐこと」

もっとも大切です。日常の中でも子どもの行動範囲に目を配り、**危険な場所を保護者が把握**しましょう。

- * 子どもから目を離さない
- * 日頃からの教育
- * 危険な場所へは行かせない

「泳ぐよりも浮くことを考える」

UITEMATE(浮いて待て)は世界の共通語

水に落ちると多くの人がパニックになります。服を着たまま水に落ちる経験がなく、また必死で泳ぐことを考えてしまいます。しかし**服を着たまま水に落ち、泳ぐことは想像以上に難しい**のです。

- * 水の事故で命を落とすのは、ほとんどが「溺死」(=呼吸ができなくなる)
- * 浮くことを考えて呼吸を確保
- * 浮いていたら「泳ぐ」か「待つか」

「そばにいる人が水に落ちたらどうするか？」

もし目の前で水に落ちてしまった人がいたら・・・

「真っ先に自分も飛び込んで助けに行く」ということは避けましょう。

その人の代わりにアナタ自身が死んでしまつては意味がありません。

共に助かる方法を知っておきましょう。

- * 近くに「棒」「ロープ」「ペットボトル」などを渡す
- * 大声で周囲に助けを呼ぶ



着衣水泳実施写真

「服が凶器になる」

水難事故の8割が「泳ぎに行った時以外」というデータがあります。

水に濡れた洋服の重さは想像を絶します。服と服の間にも水が入り込み、水風船をいくつも付けている状態になります。服を着たまま泳ぐことは非常に難しいのです。**着衣水泳体験で安全意識向上を。**